

地域別グランドデザインの推進方針について

1. 背景

- 公共施設の老朽化や社会保障費の急増など、団体自治としての公共的な課題も避けては通れない状況である。
- 「地域でなければ解決できないこと」「行政だからこそすべきこと」「地域と行政がともに解決すべきこと」をそれぞれの地域ごとに考え、最適解を導き出す必要がある。

2. 目的

- 住み慣れた地域で「いつもの暮らし」を守り続けるため、市全域一律一辺倒の公平性に捉われることなく、地域課題を地域ならではの施策で解決する。
- 市民、自治振興会、区・自治会、市民活動団体、民間事業者等、議会及び行政が、対等な立場で対話による合意形成を図り、地域別グランドデザイン（地域の将来展望図；以下：デザイン）を策定、共有する。

3. 基本的な考え方

- デザインとは、概ね小学校区単位（自治振興会ごと）における地域課題と行政課題を示すとともに、その解決に向けた方向性について、対話による合意形成が図られたもの。
- デザイン策定が目的ではなく、検討プロセスを通じ地域住民と行政が信頼関係を築き策定した後もデザインの更新と合わせ関係性を継続していくことを目指すもの。
- 自治振興会が策定した「地域づくり計画」と行政がとりまとめた「地域カルテ」をベースとし、市民（地域）、行政、双方の年度ごとの具体的な行動や段取り（ビジョン）、予算をまとめた「アクションプラン」を想定。
- ハード施策（公共施設の集約、複合、転用、廃止）とそれらを補完するソフト施策（交通、福祉、移住、空き家、人材育成等）を具体的に示すもの。
- 展望すべき年度は、現役世代が責任を持てる未来であり、高齢化のピークとされている概ね20年後（2040年）とする。
- ※第3次甲賀市総合計画（終期）、公共施設等総合管理計画行動計画（2期終期）、総務省自治体戦略2040構想と連動
- 主は地域（自治振興会）であり、行政はデザイン策定にかかる伴走支援、デザイン策定後、双方の関係は継続するものの地域自らが地域内分権（地域で課題解決）を推進する仕組みとする。

4. 対話の進め方

- 次ページ参照

5. スケジュール（案）

- | | | | |
|------|------|----------------------------|--|
| 令和4年 | 1月 | 検討体制づくり | ステップ1
ステップ2
ステップ3
ステップ4 |
| | 4月 | 現実の共有 | |
| | 6月～ | 地域コミュニティ（区・自治会、自治振興会等）のあり方 | |
| | 11月～ | 地域の困りごとの整理と分析 | |

令和5年 4月～ 公共施設の最適化
令和6年 3月 地域人口ビジョン、グランドデザイン策定

ステップ5
ステップ6

対話の進め方

ステップ1 検討体制づくり

地域の検討委員と市職員（グランドデザインチーム）による検討体制を整える。

ステップ2 現実の共有（地域、行政の将来を客観的に共有する勉強会）

地域の検討委員と市職員（グランドデザインチーム）による地域の現状の共有を図る。

ステップ3 地域コミュニティ（区・自治会、自治振興会等）のあり方検討

自治振興会を核とし持続可能な住民自治のあり方を行政とともに考える。

ステップ4 地域の課題の整理と分析（ワークショップ形式など）

地域の課題を地域住民と行政の役割分担と協働により解決できる方法を検討する。

ステップ5 公共施設の最適化（ワークショップ形式など）

各町、各地域内の公共施設状況の共有（耐用年数、利用状況、コスト）

ステップ6 地域人口ビジョン、グランドデザイン策定

地域ごとの人口推計をもとに、「これならできる」と思える地域ごとの定住人口増加目標等を示したグランドデザインを策定